

幼児期(3~5歳ごろ)の大切なことって? ①

目標に向かってがんばる力や気持ちをコントロールする力を育みます

- いろいろなことにチャレンジしたり、認めてもらったり、失敗しても受けとめてもらえたりする経験の積み重ねで、目標に向かってがんばる力や、気持ちをコントロールする力が育まれます。

うまくいかない時は、一緒にしたり、はげましたり……

うまくいかない時などに、はげまされたり、助けを求めてこたえてもらったりすることで、忍耐力(粘り強さ)が育まれます。



興味をもって遊び始めても、途中でうまくいかないこともあります。そんな時、信頼する大人に見守られていたり、必要に応じて助けてもらえたりすると、あきらめずにやり遂げようとしていきます。やり遂げたい気持ちを大事にし、完成した時には満足感を高めるために一緒に喜ぶことが大切です。また、最後まで完成できなくても、努力を認めてもらえることで、意欲につながります。

目的のために、がまんするかどうかを、子どもが選ぶようにする

少し後で楽しいことが待っている場面で、子どもがどうするかを選び、少しがまんする経験を重ねることで、がまんする力(自制心)が育まれます。



「今、1つだけ動画を見るか、後で2つ見るか。」など、子どもが目的に向かってがまんするかどうかを決める場面を作るといいでしょう。そのがまんの後に、目的が達成された(できた)経験を重ねることで、がまんする力(自制心)が育まれます。その時、子どもが自分で選択することが大切です。子どもが、がまんする方を選ばない時は、また次の機会を探しましょう。

子どもがやりたいお手伝いを認め、感謝を伝える

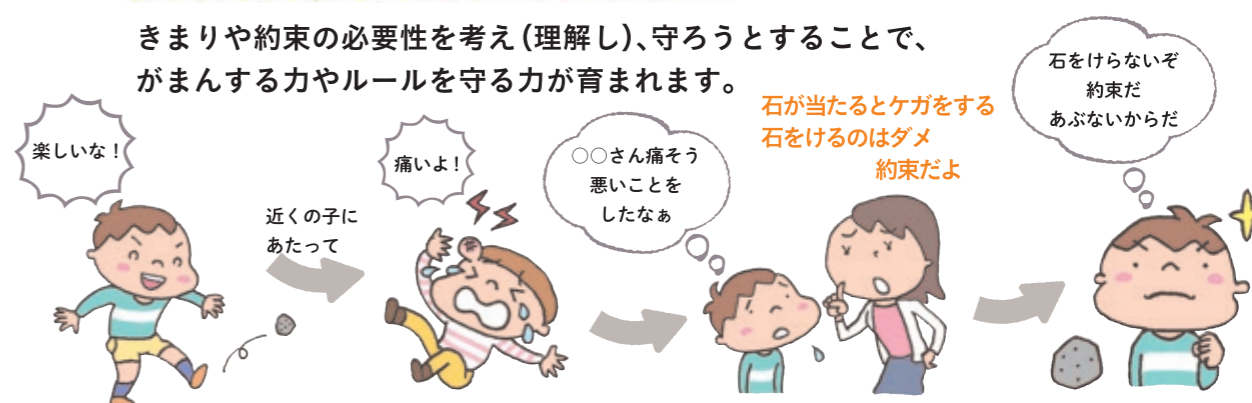
お手伝いをして、それに対して感謝されることで、意欲や自信、自尊心が育まれます。



子どもはお手伝いをしがります。自分で思いついたことを大人に認めてもらえると、自律性が育まれます。また、相手に感謝されることで、子どもは自分が「できる!役に立つ!」と思い、もっと人の役に立つことができるようになっていこうと思います。ただし、ごほうびなどをあげると逆効果になるので、過剰にはめることは注意しましょう。

きまりの必要性を考えるよう、うながす

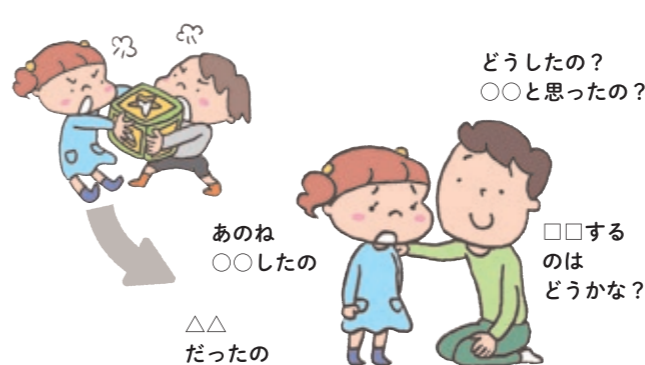
きまりや約束の必要性を考え(理解し)、守ろうとすることで、がまんする力やルールを守る力が育まれます。



生活の中では、いろいろなきまりや約束があります。子どもはきまりを知り、それに従って自分を抑制する力を身につけます。しかし、なぜそのきまりが必要なのか、子どもにわからない場合もあります。ただ「良いか悪いか」を教えるだけでなく、子どもが自分なりに考えるように援助することが大切です。叱られるからきまりを守るのでは、本当の自制心につながりません。きまりの必要性を理解したうえで、守ろうとする気持ちをもたせるようにすることが大切です。

けんかした時は、話(思い)を聞き、大切なことを伝える

けんかした時は、まず、「どんなことがあったの?」「〇〇と思ったの?」などをじっくり聞いてください。そのうえで、「これはよくないよ」「こうすればどうかな?」などを伝えます。これらにより、ルールを守る力や、人と関わる力が育まれます。



おもちゃの取り合いからも学べる場合があります。どんなことがあったのか、子どもがどのように思っていたのかをじっくり聞いてください。そのうえで、危ないことや迷惑になることは、よくないと伝えます。「こうすればどうかな?」と、代わりに行動を伝えます。迷惑をかけた時は、謝ることを伝え、行動につなげてください。自分のやりたいようにできない経験から、何がダメだったのか、自分の思いをどのように人に伝えればよかったのかも学びます。